

路上放置自転車は社会問題

江坂企業協議会 副会長 瀧川 紀征

いまや、全国のターミナルや盛り場周辺で、いちばん問題となり、しかも解決に頭を痛め、苦勞しているのが路上に放置されている大量の自転車です。数十台、数百台と、まるで路面を埋め尽くす放置自転車の群れは、私たちの



日常生活や、安全通行に重大な障害を与えています。これは全国各地で起こっている問題でもあり、それぞれが解決策を講じ、その対策に当たっていますが成功事例は極めて

少ないようです。一昔前は、道路上に駐車する自動車の不法駐車が社会問題化し、これを取り締まるために法律改正や、駐車場の増設、時間性パーキングの普及などの対策が進められ、その効果もあって、やや沈静化している状況ですが、それにとって代わる問題として放置自転車が目立ち、各地でこれの対策に追われています。

私たちの街、江坂も十数年前から放置自転車が目立つようになり、江坂企業協議会としても、この問題について何度も行政に対策を講じていただくよう要望を重ねてまいりましたが、



増え続ける放置自転車は、いかんともし難く、江坂駅周辺は乱雑に放置された自転車に呑み込まれる状況となりました。

この間、江坂公園地下駐車場の新設、地下鉄江坂駅

高架下の駐輪場増設、NPO法人「江坂ビジョン21」が雇用する整理員による駐輪指導など、考えられる対策はすべて講じてまいりましたが、最大1500台にもなる放置自転車を根絶することはできませんでした。



特に、江坂駅西口は飲食店など商業施設が多く、公営の駐輪場も無いことから、道路上に放置自転車が溢れるばかり、撤去しても撤去しても後を絶たない現状です。

「江坂駅西口交通環境改善協議会」が主体となってこの地区の放置自転車対策に取り組んでいる中で、今年から「エスコタウン」が全面改装されることになり、それに合わせて窮余の策として、路面に駐輪機を設置し、約500台の自転車を収容する事に致しました。



時間制による有料駐輪場と致しますが、これで全てが解決するわけではなく、第二、第三の方策を講じてゆかねばなりません。

時代は省エネ、無公害を志向し、安価で、便利な交通手段としての自転車を利用する人はより多くなると予測されます。排除するばかりでなく、この流れをどのように受け入れ、街の発展と、商業活動につなげて行くかが肝要であり、今後の対策と方向を考えてゆきたいと思っています。

クリーンデーは、参加者がどんどん増えています。

環境整備委員会 委員長 紙谷幸弘

次の集合は、10月1日 午前7時30分 サニーストンホテル前です。

7月のクリーンデーは、平成22年7月1日(木)午前7時30分にサニーストン前に約150名(学生40数名を含む)の関係者にご参集いただきました。役員より参加者に火箸・ゴミ袋・手袋を渡され、タバコの吸殻・空き缶・壊れたビニール傘等を回収し清掃作業を行いました。又、ヤクルト(株)さんより、飲料品(ジョア)を

参加者全員に提供していただきました。最近では参加者も増え、江坂の街もきれいになったので、ゴミの量が以前に比べて少なくなり、張り合いが減ったと嘆く古くからの参加者もいます。しかし、油断すると直ぐにゴミの量は増えるので、今後も気を緩めずに、多くの方の参加をお待ちしています。 次回は10月1日です。



「吹田くわいの本」出版に当って

北村英一 吹田くわい保存会会長 江坂企業協議会名誉理事

吹田くわいは古代から吹田の大地で育ったオモダカが豊かな自然により進化した植物です。しかし戦後の除草剤の多用によって絶滅の危機に陥り、「幻の野菜」と言われたが、昭和38年田んぼの片隅で発見され保存運動が始められた。江坂企業協議会は昭和53年に発足したが、最初の企画として緑の街作り運動を展開する事になり、植樹を行うと共に吹田くわいの栽培も行う事になり、江坂公園と千里西公園に栽培池の造成を市にお願いした。これが吹田くわい保存運動の始まりとなりました。吹田くわい保存運動の道を開いてくれたのです。

今回長年の保存運動の全貌をま

とめて本の出版にふみきり、吹田市民は勿論全国に吹田くわいを広める運動を進めていきます。江坂企業協議会の皆様の御援助を頂ければ幸いです。



大阪日日新聞 平成22年7月5日(月)